

令和 6 年度タクシー事故防止対策検討会

タクシー事業者による事故防止のための取り組み事例

令和 7 年 3 月
関東運輸局 自動車技術安全部
保安・環境課

1. 出会い頭衝突事故防止等の取り組み【すみれ交通有限会（神奈川県）】
... 3
2. 出会い頭衝突事故防止等の取り組み【東栄興業株式会社（神奈川県）】
... 4
3. 出会い頭衝突事故防止の取り組み【実用興業株式会社（東京都）】
... 5
4. 衝突事故防止等の取り組み【北斗タクシー株式会社（神奈川県）】
... 6
5. 視野障害に伴う事故防止等の取り組み【ツルヤ交通株式会社（埼玉県）】
... 7

背景及び目的

タクシー事業者として、多くの利用者を安全に目的地に運ぶとともに、歩行者、他の交通の利用者をはじめ、輸送の安全を確保することが第一課題であり、ひいては運転者の生活にも影響を及ぼすことから、両方の安全を守ってこそ、輸送の安全を預かる事業者としての責務と考え、タクシーの特徴的な事故である出会い頭衝突事故防止のための取り組みを実施。

取り組み内容

- A I 搭載のドライブレコーダーを用い、特に一時停止不安全行動車を抽出し、運転のクセを個人ごとに見える化するとともに、点呼時に交差点等でしっかりと一時停止し安全確認を行うよう指導し、運転者自身がレポートを確認することにより、事故防止に対する意識向上の取り組み。
- 運転者が構内から出庫する際や会社付近を通過する自車の車両を、防犯カメラを活用し動態確認を行い、しっかりと一時停止を行っていない運転者に対し、即時無線にて指導を行い、乗務後点呼時にも指導を行っている。また、運転者同士で、交通違反等について注意を促している。
- 大きな事故には至ってはいないが、自損事故が多い運転者は、視野になんらかの障害があることが多いことから、眼科を受診させ医師の判断を仰ぎ視野障害のある運転者には治療を行っている。

取り組みによる効果

- A I 搭載ドライブレコーダーのレポート結果、運転者それぞれの運転のクセを把握でき、個々に合わせた指導、教育を的確に行うことができ、事故を未然に防ごうとする意識が社内で高まった。
- 運転者に「いつも誰かが見ている」と安全運転意識が芽生え、確実な一時停止やスピードを抑えた運転などを行うようになり、出会い頭衝突事故、交通違反が大幅に削減された。
- 運転者に眼科を受診させることにより、視野障害による運転リスクの認知が向上し、より安全確認を行うことで自損事故が削減した。



【防犯カメラを活用した動態確認映像】

背景及び目的

デジタル指導とアナログ指導の融合に取り組み、A I ドライブレコーダーをもとに定量化されたデータを用いたデジタル指導と、安全運行に対する心構え・意識向上を図るため掲示物・映像などを用いたアナログ的指導を組み合わせた乗務員教育を徹底することで、出会い頭衝突事故防止への体制の充実を図る取り組みを実施。

取り組み内容

- A I ドライブレコーダーを活用し、一時停止違反を重点項目として位置づけ、その他の項目も含め、事故惹起前に予防対策にも注力し、定量的な数値に基づき指導・教育を適時実施し、事故防止に対する意識向上の取り組み。
(急加速、急減速、車間距離不足、脇見、急ハンドル、速度超過、急後退など)
- より安全な一時停止である「多段階停止の励行」の徹底を図り、啓発掲示物・映像を使い指導・教育を実施

取り組みによる効果

- 運転者それぞれの運転のクセを把握でき、個々に合わせた指導、教育を的確に行うことができ、事故を未然に防ごうとする意識が社内で高まった。
- 一時不停止の検知と改善によって、確実な一時停止が定量的に表すことができ、運転者が理解しやすい指導ができるようになった。これにより、見通しの悪い路地での多段階停止の励行により出会い頭衝突事故が大幅に削減された。

【多段階停止の励行資料】

より安全な一時停止 ～多段階停止の励行を～ 見通しの悪い交差点の安全な進み方

多段階停止とは

「止まる」「見せる」「見る」の3ステップ

「見る」前に、まずは「見せる」ことを考える

「多段階停止」は安全だけでなく「安心感」も生み出す



より安全な一時停止 ～多段階停止の励行を～ 見通しの悪い交差点の安全な進み方

より安全な一時停止 ～多段階停止とは～



「止まる」の感覚がある交差点では一時停止、
当たり前の交通ルールですが、正しく一時停止をしていない車が多く見られます。止まったつもりでも実際には止まっていない、それ気づいていないドライバーが多いです。あなたの運転は大丈夫でしょうか？
より安全な一時停止の方法、「多段階停止」について見ていきましょう。



●多段階停止の目的
●大勢の人は止まる回数ではありません。「一時停止や確認に止まること」「交差点の安全な進み方」を目的とします。
「安全な進み方」を目的とします。
●車を動かさなければ安全運転をする、車の動かし方と安全運転の動作をひとつづつ区別して行うこと。これも、多段階停止の目的です。



背景及び目的

子供が運転する自転車が一時停止を無視して飛び出てきた出会い頭事故が発生し、タクシー運転者としてはこうした事態も予知予測できるよう、新入社員研修時にしっかりと教え込む必要があると考えた。

また、出会い頭で車両同士が衝突し自社車両が横転した事故が発生し、自社運転者は一時停止をしたつもりであったが、相手側のドライブレコーダー映像を確認すると、自社車両が一時停止不履行により飛び出てきたように見えることが分かり、相手側目線での自社車両の行動を理解させることが必要であると考えた。

取り組み内容

- 新入社員研修時に見通しの悪い交差点に実際に出向き、出会い頭衝突事故を想定した指導を行っている。
- 全社員に向けて「出会い頭といえば“赤”」と教え込み、交差点などは信号機がなくとも「赤信号」と思えと指導を行っている。
- 車両同士の出会い頭衝突事故における、お互いのドライブレコーダーの映像の比較。
自社車両からのドライブレコーダーの映像では、一時停止を行っている様に見えるが、相手側のドライブレコーダーの映像では、自車が停止もせずに飛び出てきているように見えたことから、相手側目線での自社車両の行動を理解をさせ、相手側目線で運転するよう指導を行っている。

取り組みによる効果

- 新入社員は、自転車との出会い頭衝突事故が発生していないことから、一定の効果が認められている。
- 「交差点は信号機がなくとも赤信号」とイメージができるようになり、交差点での一時停止、減速行動ができ、事故件数が減少した。
- 自分では一時停止を行ったつもりでも、相手側目線からでは自車の行動が違っているように見えることを理解でき、ヒヤリハットの件数が減少した。



【見通しの悪い交差点へ出向き行っている新入社員研修風景】

背景及び目的

自損事故が多かったことから、バックモニターの設置、A I ドライブレコーダーによる運転習慣を具体的に確認することで、事故を起こさないための予防対策に力を入れたと考えた。

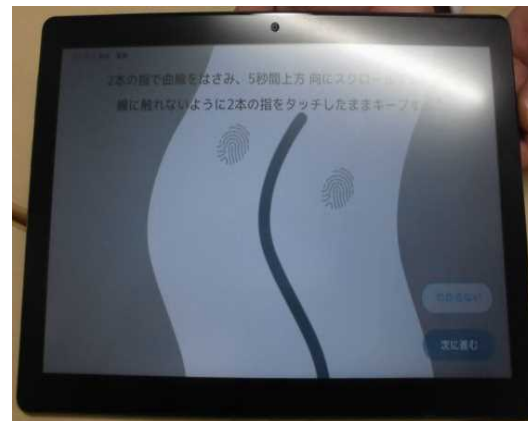
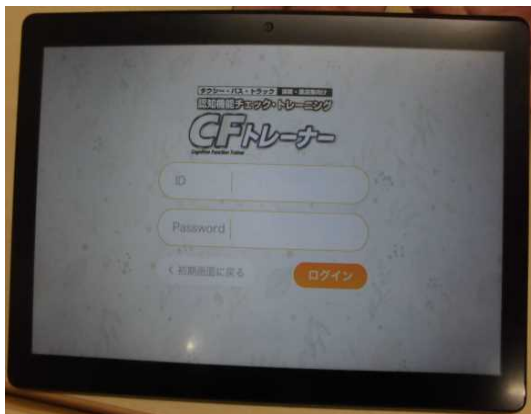
また、高齢運転者も多く、認知症が不安だったことから、認知機能チェック・トレーニングシステムを活用して認知症の早期発見を考えた。

取り組み内容

- 全車両にバックモニターを設置し、バックによる自損事故件数の削減。
- A I ドライブレコーダーを活用し、急減速を重点項目として位置づけ、その他の項目も含め、定量的な数値に基づき指導・教育を適時実施し、事故防止に対する意識向上の取り組み。
(急減速、脇見、一時不停止など)
- 認知機能チェック・トレーニングシステムを活用し、認知機能チェック及びトレーニングを行っている。

取り組みによる効果

- 軽微なバックによる自損事故が削減でき、バックセンサー装着車と相まって大幅な事故削減ができた。
- 運転者それぞれの運転のクセ等を修正することにより、個々に合わせた指導、教育を的確に行うことができ、大幅に事故削減ができた。
- 指導時間が増えたことにより、今まで以上にコミュニケーションを取る時間が増え、普段の様子との違いがあると、直ぐに気付けるようになった。
- 全運転者が、月 1 回程度認知機能チェック及びトレーニングを行い、認知機能低下の早期発見や認知機能の改善が期待され、今のところ認知症低下の運転者は確認されていない。



【認知機能チェック・トレーニングシステムタブレット】

背景及び目的

高齢ドライバーの事故について、なぜ危険を認識できないのか調査した結果、視野が狭くなることにより、気付くのが遅れた等の事案があったことから、身体的要因事故を未然に防止するため。

また、一時停止不足による事故が多かったことから、事故を記録するドライブレコーダーでなく、事故を未然に防ぐ目的でA Iドライブレコーダーを導入し、事故を起こさないための予防対策に力を入れたいと考えた。

取り組み内容

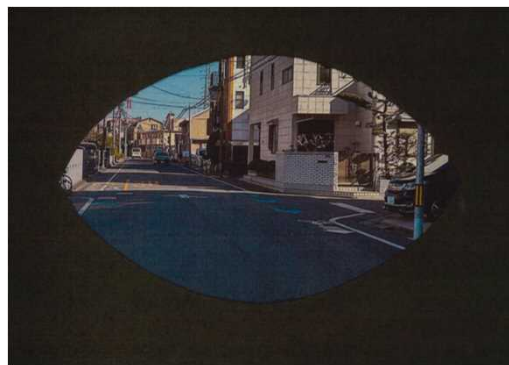
- 高齢ドライバーの事故が減らないことから、加齢に伴い視野が狭くなった場合にどのように見えるのかを体験させるため、パソコンを使用し画面に視野の範囲を限定させるプレートをつけ、見え方を確認させることにより、事故防止に対する意識向上に取り組んでいる。
- A Iドライブレコーダーを活用し、一時停止違反を重点項目として位置づけ、定量的な数値に基づき指導・教育を適時実施し、事故防止に対する意識向上の取り組み。（脇見、後退など）

取り組みによる効果

- 視野が狭くなることにより、認知が遅れ、判断も遅くなり事故に至る恐れがあることを認識し、交差点付近では十分に減速するとともに、目だけではなく顔や身体を使って安全確認を行う必要性を理解させ、物損事故が大幅に削減できた。
- 確実な一時停止が定量的な数値で表すことができることから、運転者が不足している安全確認部分について理解しやすい指導ができるようになった。これにより、見通しの悪い路地での一時停止における安全確認の意識が向上し、出会い頭衝突事故が大幅に削減できた。



【通常の視野の場合】



【視野が狭い場合（疑似）】